

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1296700014		
法人名	有限会社 かづみ		
事業所名	グループホーム あんしん睦沢(川島)		
所在地	千葉県長生郡睦沢町川島757-3		
自己評価作成日	令和4年2月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.homes.co.jp/facility/basic/f=44886/">http://kaigo.homes.co.jp/facility/basic/f=44886/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	令和4年2月18日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の身体的、精神的能力の低下に伴い、出来る事は減りつつも、毎日少しでも笑いのある生活を過ごしてもらいたいと願っています。  
レクリエーションには力をいれています。(リハビリ体操、タオル体操、ラジオ体操、音楽レクリエーション、笑いヨガ、早口言葉、指体操、外出、外食)美容を取り入れ、お洒落に関心を持って頂くよう配慮しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ケア会議の時などは、基本理念(利用者の基本的人権の尊重・自立支援・老いの心をいやす)等を確認し合い、常に利用者の見守りを大切にすることを第一に掲げている。コロナ禍で外出がままならないため、音楽を流し終わるまで皆で廊下を散歩したり、花の好きな方には職員と一緒に花を植えてもらったり、ドライブを楽しみながら桜などを見に行ったりしている。また、チラシを見てそれぞれ食べたいものを選んでもらい、職員が買ってきたり出前を取ったりして外食に変わる方法を取り、利用者の気分転換を図っている。本部の看護師が毎週来訪し情報交換や指示を行い、月1回の提携医療機関への外来診療の際の共有資料としている。朝のバイタルが大丈夫でも、入浴前には必ずバイタルチェックを行い少しでも問題があると清拭に切り替える等、安全に心掛けている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用様が充実した生活を送り、生きがいを持って暮らせるようにしている。申し送りノートや会議等で折に触れ職員への周知徹底を図っています。	法人の理念を事務室に掲示し職員会議時に唱和・確認している。ケア会議時は、基本理念や基本方針を確認し合い、常に見守りを大切にすることを第一に掲げている。例えば、朝7時からの1時間半は職員が一人になるため、常にリビングにおいて利用者の見守りを重視している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、イベント開催時、地域との交流を図る為に参加を促しています。	理念の地域との連帯では、コロナ禍で地域の行事が総て中止になり、自治会の一員として廃品回収や回覧板を回したり、裏の広場へ散歩に出かける時に地域の方々と挨拶を交わす程度で、今は思うように地域交流が出来ない状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の民生委員の会合事、施設見学をして頂き、施設の内容を理解して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を、2か月に1回実施。ご利用者家族も参加し、施設の活動報告や意見交換を行い、外部との連絡を密にしています。	運営推進会議は年6回開催するが、コロナ禍で自粛しており、行事や職員・利用者の動向等を施設活動報告として役場へ持参し、区長や民生委員には送付している。家族には、お便りに活動報告と写真を掲載し、利用者の生活状況を紹介する形をとっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者とは、その都度相談しており、顔馴染みになっています。親切に対応して下さい、報告、連絡、相談はスムーズです。	役場からマスクや手袋を持参してくれたり、コロナワクチン接種について説明に来てくれる。毎月生保利用者の医療券をもらいに行ったり、報告書を持参したりした時に、役場内にある地域包括支援センターに立ち寄り、空き室状況等について声掛けをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	親族とその都度相談し、適切な支援方法の実践に取り組んでいます。	職員会議の時に3ヶ月に1回は身体拘束廃止委員会を開催し、身近なことについて話し合っている。例えば、ベッドから落ちて足を骨折した方が居り、ベット柵について話し合い、その後家族と話し合っ、結果は介護ベッドにした。また、「ちょっと待って！」は「これが終わるまでここで座ってください」など、必ず理由を言うように心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	穏やかに百回の質問に百回答えながら、アセスメントの為の情報収集しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修者による説明会により、職員全体のレベル向上に努め、活用するようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用申し込み時に契約書等の説明を行い、理解して頂いた上で契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に訪れた利用者家族に近居報告をしながら意見・要望を聞いて反映させている。電話連絡等活用して意見、要望を反映させています。	家族には電話や来訪した時に要望等を聞いているが、今は利用者調査を見ても、皆さん特に要望等はないようである。食事を残す利用者には、「家族が言ってたよ」と言うと残さなくなったり、外出したい・散歩したいという利用者には、「暖かくなったら車で花見に行きましょう」と言って理解してもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者および職員間で運営に関して意見や提案を言える雰囲気作りをこころがけ、相談しながら業務に反映している	職員の意見・提案を聞く機会は業務中が多く、利用者に関することが殆どである。例えば、防水シートを使用している方が、夜間に多量の尿漏れがあるのでペットシートの大きいものと併用したら良いと思うので、家族にお願いしたい等の提案が出る。また、新人職員からは、職員によって教え方が違う(例えば入れ歯の外し方や入れ方)がどれが正しいのかと管理者に聞いてくる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人の動きが激しい割には、就業環境は現場任せになっている為、事業所内で努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は何もしていないが、今後は外部の研修案内には出来るだけ参加し、職員のレベル向上に取り組めます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ事業所との交流により情報共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の戸惑いを感じ取り、人間としての高齢者を理解し、時代を知る、共感するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントシートや家族との話し合いで不安・要望等を聞き、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との話し合いで、優先順位は何かを考え、状況の変化に応じ、提案するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを取りながら、利用者様の立場に立った対応を実施しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に現在の状況を説明し、会話の流れの中で本人と家族の話がスムーズにいくようサポートしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に応じて馴染みのものの持ち込み、エアコン完備、和室・洋室が選択、友人、知人、親戚等の来訪の受け付け、外出、外泊も自由など、馴染みの関係継続支援をしています。	入所時のアセスメントから、花の好きな方には職員と一緒に花を植えてもらったり、2～3人1組でドライブしながら近隣の桜を見に行ったりしている。家族が3ヶ月毎に馴染みの美容院へ連れて行く方もいる。コロナ禍で外食がままならないので、月に1回利用者それぞれが食べたいものを職員が買ってきたり、出前を取ったりして楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アクティビティケアの実践を行っています。(QOLを高める為に日常的、非日常的な援助)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族も市・町を越えて地元に住んでおられないことが多いので断ち切れる方が多くなっているのが現状です。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況を確認すると共に、必要に応じて医療機関等より詳細な情報の把握に努めている。会議や申し送りノートを活用し、職員間で情報の共有を図っています。	寒がりやの利用者に膝掛をしてあげても効果がなく、家族に相談して電気毛布のような膝掛を買ってもらった。その後は、朝の寝起きも良くなったこともある。また、足がむくみ外に出て散歩したいという要望を受け家族に連絡の上、週に1回2時間ほど家族の助けを借りて外出し散歩してくる事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談・入所時に生活歴や暮らし方を聞き取り、入所時には馴染みの品を持ってきて頂いたり、生活しやすい環境にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサイン、排便、排尿状況の把握や歌唱、描画を進めて現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを含め、本人もしくは家族を含めた担当者会議を開催しており、意向を含めた介護計画を作成している。必要に応じて、医療機関等と入居者のニーズの把握に努めています。	認知症が進み、食事中に何度となく入れ歯を外してしまうため、歯茎だけでも食べやすいようにペースト状に軟らかくして食事を取ってもらうよう担当者会議で決めたことがあった。ある人は、食後ただ座っていて動こうとしないため、家族が心配された。そこで、音楽を掛けて音楽が鳴りやむまで廊下を歩き健康維持に努めた。他の人たちも参加し、全体の健康対策にも繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送りノート、会議、ヒヤリハット、日々の行動や職員間の情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に合わせ、チームケアを取り入れながら、柔軟な対応が出来る様に心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を図り、一人ひとりが地域の一員として、生活できるように働きかけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医の受診と共に、適切な医療受診を支援しています。定期的に、歯科医の往診も実施しています。	4人の利用者は3か月に1回各々の家族が精神科医に連れて行っている。腸を患っている方は、内科を含めて入居前からのかかりつけ医に家族が連れて行っているケースもある。提携医による定期健診は利用者ごとに職員が連れ添って出かけ、健康管理に努めている。本部所属の看護師も週1回の訪問があり、健康対策には十分注意をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師の訪問で情報交換や指示を仰いでいます。毎月1回、提携医療機関外来にて定期受診をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の看護師、介護職とコミュニケーションを取って、退院後に備えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化、終末期における意向の確認を行っているが、状況を見ながら、適宜、再確認を行い、常に意向を取り入れて対処しています。	入居に当たっての契約時に、重度化した場合の同意書を取り交し確認している。ホームとして今年度は看取り実績はないが、高齢化・重度化が進んでいく中、看護師の来訪時に助言をもらいながら今後の重度化に対する体制づくりを進めていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当のマニュアルはあります。判断が難しい時には、看護師に常時連絡が取れる体制になっています。119番の依頼を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練を実施しています。6月に総合防災訓練実施予定しており、その後、防火、防災、夜間訓練も予定しています。	8月と12月に昼間を想定し、避難場所を裏のオープン畑と決め、火災避難訓練が行われた。12月の訓練では、消防署立会のもと消火器を使った消火訓練も行われた。日ごろから職員が非常時に対する意識を持ってもらうため、緊急時の連絡網を事務室、台所、廊下に貼って職員の目に止まるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応が十分に行き届かないこともあり、全職員が共通の認識を持って対応できるよう促しています。	他の人がいる中でのトイレ誘導の声掛けは、大きな声を出さずに側に寄って話しかけることに注意を払っている。その人のプライバシーを守る上からも、職員には居室に入るときはノックをして、「失礼します」と言ってから入るように常に指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	プライバシー保護、接遇等、コミュニケーションを取り、情報共有する。ユマニチュードを取り入れ個別ケアの徹底に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特に決めてなく、自由に過ごしていただいています。天気の良い日には、日当りの良い場所で日光浴を勧めたりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援	家族から持ち込まれた衣類や入所時に持参した化粧品等で、外出時には化粧をして出かけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを紹介し、見た目の美味しさや、季節を感じて頂いたり、音楽の取り入れ、外食行事の提供等を実施しています。	食事前に口腔体操をして、終わった後に今日の食事のメニューの中身を紹介し食事モードへと誘導していく工夫がされている。お好み焼きを作って皆で食べる時など、タレ作り、もやしの下ごしらえ等手伝ってもらい本人が参画した食事作りには食が進むようである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配の栄養士が作成した献立に、食事や水分量はケース記録に記入し、利用者様の状態の変化に応じて食事形態も変えています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の訪問診療を受けている。口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活用しながら個々の排泄パターンを把握しており、声掛けやトイレ誘導にて、排泄の自立に向けた支援をしています。必要に応じて医師に相談し、適切な排泄コントロールを行っています。	排泄記録をもとに個々人の排泄管理をすることで、その人に合った生活リズムを作ってあげることに注意を払っている。便秘症の人が多く、定期健診時に医師に報告し下剤を服用することもしばしばある。薬は職員に管理を徹底させている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表・牛乳製品摂取・散歩や体操など、個々に応じて取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の体調や希望に応じて柔軟に対応している。清潔保持に努めています。	朝のバイタルが大丈夫であっても、入浴前には必ずバイタルチェックをし、血圧の高い人にはその日は入らず延ばすようにしている。季節によってはゆず湯やしょうぶ湯に浸り季節を感じてもらっている。入浴拒否をされる人には、順番をずらした後に、「お待たせしました」と声掛けをすることで、スムーズに入浴してもらうこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室にエアコンを完備しており、日中居室で休まれる方への対応や夜間の室温調整を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の処方箋に従い、誤薬の無いように本人と薬の確認を行いながら、飲み込みを確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、新聞折、散歩、レクリエーション等で、気分転換の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から散歩等、戸外に出掛ける機会を設けています。イベント等を企画し、外出支援により外食等を取り入れています。	コロナ禍により、外出計画はされていない。一人は家族が連れて外出することがあるが、殆どが音楽を掛けて廊下を歩いてもらっているのが現状である。近隣の集会場に桜が咲いていた時期に、ドライブがてら桜を見に行ったことがある。外出のできない現在、体力維持のため廊下を歩いたり、歌を歌ったり、パズル、塗り絵等でストレスの発散を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、対象となる利用者はいませんが、出来るだけ支援するように努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	重度の利用者が多い為、今のところではできていませんが、今後は働きかけるよう努めていく予定です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新築なので、バリアフリーが整っていて、日当たりの良い所での場所が利用者の憩いの場となっており、思い思いに生活ができるような空間を確保しています。	廊下の突き当りのオリーブ畑が見える場所は日当たりもよく椅子が2つ置かれており、そこに座って寛いでいる姿はよく見かけられる。テーブルでの自分の座る場所が一番安心されるようで、そこに座って天井に貼ってある紙飾りを見上げてゆったりとした時間を過ごされる風景もよく見受けられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人部屋なので、リビング、廊下等で、疲れた際は部屋にて休んでおられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望に応じて馴染みのものを持ち込むことが出来、エアコンも完備。希望に応じて、和室・洋室の希望選択が可能。	現在、和室5部屋、洋室4部屋となっており、入居時の空き室状況に合わせてどちらの部屋が良いか選んでもらっている。入居前からの馴染みの物の持ち込みとしては、家族の写真、置物、自分で作った紙の工作物、縫いぐるみ等がある。縫いぐるみを持ち込んだ人は、寝るときに枕元に置いており、その方が安心して眠れるようである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物が新築の為、バリアフリー、広い廊下、段差のない床と安全な環境の中で生活ができる様、整備しています。		